

## 岐阜農林事務所の普及活動状況 令和5年12月28日現在

### 今月の重点活動

#### ■小麦 安定生産に向けた取り組み

当管内の小麦は準硬質でパン・麺用途に向く「タマイズミ」が栽培され、10月26日から播種作業が始まった。今年は11月上旬から定期的な降雨があったため、播種作業は一時中断を繰り返しながらも予定面積（約500ha）以上の播種が行われた。これまでのところ、気温は平年並み～やや高く推移したこともあって、発芽は良好、分けつも順調に進んでいる。

農林事務所では、播種作業が始まる前に排水対策の徹底と適期播種の実施、播種が遅れた時には播種量増などの対処を指導してきた。出芽後には各地域に調査ほ場を設け、生育状況を把握している。さらに近年は一部の小麦の連作圃場で、難防除雑草の「ヤグルマギク」が発生し、年々増加、拡大傾向にあるため、全農、JAと協力し、雑草対策実証ほ場を設置し、調査を行っていくこととしている。

今後も定期的に調査を実施し、生育状況を把握するとともに、雑草対策や施肥管理について指導し、令和6年産小麦の安定生産を図っていく。

(地域支援第三係)



【小麦生育調査ほ場】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水田農業 JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会で情報提供

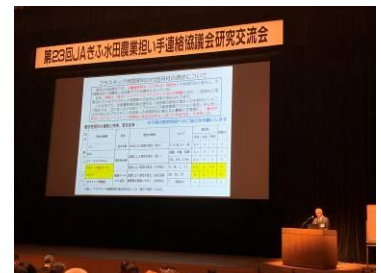
JAぎふ水田農業担い手連絡協議会が12月14日、長良川国際会議場において研究交流会を開催し、水田営農法人の役員や大規模農家、岐阜農林事務所、JA全農岐阜、JAぎふ、資材メーカーなど270名が参集した。

「ハツシモ食味コンテスト」の表彰や「米穀情勢」、「飼料用とうもろこしの取組」、「R6産水田活用米穀」などについて情報提供が行われたほか、農林事務所から、令和5年産米の作柄とマイクロプラスチック代替肥料の現状について情報提供を行った。

水田農業の担い手は肥料や燃料が高騰するなか次年度の作付計画を考える時期となっており、今回の研究交流会は非常に意義深いものとなった。

農林事務所では、次年度の営農計画策定に向けて、今後も各種情報提供やアドバイスを行っていく。

(地域支援第二係)



【研究交流会の様子】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■祝大根 令和5年産の作柄は良好

岐阜市のだいこん生産者で構成されるJAぎふ大根部会は、近畿地方向けに「祝大根」を生産している。正月の縁起ものとして近畿地方では雑煮の具材に用いるため、毎年12月17日から27日までの11日間限定で、全量を大阪に出荷している。また、縁起物として出荷することから、形が良く、傷やよごれの無い「秀品」で、大きさも「M、L、2L」のみの厳しい規格としている。

農林事務所は、これまでJAぎふと連携し、作付ほ場の調査、栽培指導、出荷計画策定を行ってきた。

12月12日開催の出荷目揃会では、しっかりと選別を行うよう生産者役員から規格や荷姿の注意点が説明された。農林事務所からも、縁起ものなので通常の大根と思わず丁寧に荷造りをするよう呼びかけを行った。

令和5年産は高温や干ばつに遭遇したが、生産者の努力で短根傾向ながらもまずまずの出来で、63万本の出荷が見込まれる。



【目揃会の様子】

(園芸産地支援第一係)

### ■カリフラワー カラーカリフラワーの出荷始まる

各務原市内でカリフラワーの出荷が11月20日から始まり、12月に入り本格的に出荷が開始された。

各務原市では、にんじん経営の安定化を図るための組み合わせ品目としてカラーカリフラワーが令和元年から導入されており、クリスマス需要に合わせて、白、オレンジ、紫の3色のカリフラワーを出荷することを目指した栽培が行われている。

今年は、栽培期間中高温干ばつで推移し、一部で害虫被害や高温や乾燥による生育不良が見られたが、全体的には生育は良好に進み、12月20日時点の実績で3色が揃った出荷割合は67%、前年比でプラス6%と順調に収穫がされている。

農林事務所では、関係機関と連携しながら今作の振り返りや次作に向けての管理などの指導を行っていく。



【カラーカリフラワーの荷姿】

(地域支援第二係)

### ■薬用作物 薬用作物産地化に向けた取り組み

岐阜市薬用作物栽培協議会は、12月21及び22日に栽培技術研修会を開催、薬用作物生産者と関係者13名が参加した。

研修会では、公益社団法人東京生薬協会の担当者から、キキョウ栽培に関する様々な取り組み事例が紹介された。また、キキョウから漢方薬が製造される工程などが紹介され、キキョウの乾燥調製方法を学ぶことができた。

農林事務所からは、今年発生が多かった害虫「ハスモンヨトウ」が、キキョウでも多数の食害被害を与えたことから、防虫ネットやフェロモン資材を活用した耕種的な回避対策について情報提供を行った。

薬用作物栽培の安定栽培技術はまだ確立途中にあり、生産者からは活発な質問が出され、生産技術に対する関心の高さが伺えた。

農林事務所では、今後も研修会を通じて生産技術の向上を図り産地化を支援していく。



【研修会の様子】



【収穫されたキキョウ】

(地域支援第一係)

## ■柿 果宝柿の出荷

夏場に「富有柿」に袋を掛け、完熟するまで樹上で育成してから収穫する「袋掛け富有柿」は、あっさりとした上品な甘みとうっすら白い粉をまとった真っ赤な大きな実が特徴で、例年12月になってから出荷が始まる。中でも、1個350gと大きく、糖度が18度以上で、鮮やかに赤く、果粉の載りなど品位にこだわり厳選された果実が「果宝柿」となる。

今年、12月11日から1週間かけて「袋掛け富有柿」の収穫、選別、出荷が行われた。当管内では、生産者組織、JA全農岐阜、JAぎふ、県農業経営課、農産園芸課、農産物流通課、農林事務所が協力体制を組み、非破壊糖度計を用いた糖度の測定、果実重量、外観のチェックを行った。

今年は例年と比較し小玉傾向で、果宝柿として出荷できる量に不安が残ったが、一方で糖度が安定して高く、結果としては前年を上回る量が「果宝柿」となった。

これら「果宝柿」は数量に限りがあるため、関東、東海の百貨店や果物専門店等での販売となる。

(園芸産地支援第二係)



【果宝柿】